

有志舎の新刊です。2021年7月下旬刊行

# 日本を<sup>ちようせんうし</sup>生きた朝鮮牛の近代史

竹国友康 著

四六判・ハードカバー・340ページ 本体価格 3,400円

日本に移入された朝鮮牛の「いのちの歴史」を追う！

かつて日本の農村や都市では、多くの朝鮮牛(赤牛)が人びとと共に働き生きていた。日本の人びとの暮らしを支えた牛たちの「いのちの歴史」から、未来に向けた日本・朝鮮の対話の道をさぐっていく。

(目次)

はじめに——韓国晋州の闘牛大会から

第一章 朝鮮農業と朝鮮牛——牛の役利用を支えた慣行・制度

第二章 朝鮮牛の移出が始まる(移出入第一期)——牛が渡った「海の道」

第三章 検疫制度を中心とする機構整備(移出入第二期)——朝鮮牛移出入の国策化

第四章 「帝国」を生きた朝鮮牛——本国・植民地を貫く農業政策のもとで

第五章 戦時期の朝鮮牛(移出入第三期)——軍需と戦時「動員」

第六章 松丸志摩三 その人と思想——朝鮮の「農」と総督府「農政」の間で

第七章 朝鮮牛の「現在」——日韓の農畜産業をめぐる

おわりに——いのちの論理へ

〈著者紹介〉竹国友康(たけくに ともやす): 1949年生まれ、京都大学卒業、元・予備校講師

～版元から～ 牛が田畑を耕す役用牛として農民と共に力強く働いていた光景、それはもはや人びとの記憶から失われ過去のものとなってしまいました。しかし、かつて150万頭をこえる朝鮮牛が海を渡り、日本の地で人びとと共に働き、日本の人びとと濃(こま)やかな関係を結んでいたのです。本書は、日本と朝鮮の間の歴史をふまえつつ、日本を生きた朝鮮牛をめぐる記憶の糸を掘り起こし、その近代史を織り上げ、「いのちと農」の視点から、未来に向けた日本・朝鮮の対話の道をさぐっていきます。

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南4-19-2 クラブハウスビル1階 (有)有志舎 電話:03-5929-7350

番線印	ご注文	発行: 有志舎	分野
	冊	日本を <sup>ちようせんうし</sup> 生きた朝鮮牛の近代史 竹国友康 著	アジア近現代史 (日本・朝鮮)
	ご担当	四六判・ハードカバー、340ページ 本体価格 3,400円	弊社はいつでも返品を受け付けていますが、逆送のご心配がある場合は、「永滝 了解」として返品下さい。
	様	新刊 ISBN 978-4-908672-50-7 C1021	

ご注文は (株) JRC (人文・社会科学書流通センター) へ

返品条件付注文です。

FAX: 03-3294-2177

電話: 03-5283-2230